midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

１１月号の１枚：若柳嵐山でみつけたニガクリタケ（毒があるので食べれません）

［巻頭言］新しい文化創りの兆し

非営利活動の意義

いま、社会は自由経済至上主義（営利中心活動）から生活者主体体制へと移行し始めた。一昨年頃から、企業から当会・森林NPO活動へのアプローチが増えたからそう思う。企業倫理だけでは経営できなくなって、マーケッティングも生活者をシッカリ見ないと通用しなくなっている。在来型の第三セクター言われるものも、NPOシステムへと漸次、移行しており、行政・企業・学際もNPOとどのような協働関係を築けるかが問われるようになってきた。

産業革命以来、経済競争原理主義は、地球資源の多くを食いつぶして膨張・拡大してきた。その結果、経済競争の矛盾が顕在化してきた。だから人々は、成長から成熟へ進化しなれば成らない。そのような必然性から非営利活動が生まれてきたし、経済（企業）もこれと調和しなければ、生き延びる事はできないと気付き始めている。学際も企業も行政も生活者と共に「競争から“協創”」へと移行しなければ生き延びる事はできない。

閉塞感を打破するためには、「実践し、共感・交感し、協創する」ことが必要だ。当会には、この四つの要素がバランス良く機能していると思う。それは、摂理：森林・自然、人間が故に互いに共鳴しているからだ。気温３５度の真夏日に森の中での重労働は厳しい。が、厳しい環境で働くから新しい発見もある。このような生活者の実体験と２０世紀型経済至上主義の葛藤の中から「新しい文化」が生まれてくるのだ。当会の森林仲間は「新しい文化・社会システム」を模索する創造者・挑戦者である。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2010.11

１１月　７日（第一日曜日）；
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
１１月２１日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

10月3日（第一日曜日）

今回の活動では、ForestNova☆は前回に引き続いて沢沿いの道の径路作りを行いました。10月に入り、山の中でも少しずつ秋の気配が感じられるようになってきたのではないかと思いました。まだ10月とはいえ、山では幾分か空気が冷たくなってきたようでした。また今年は猛暑だったこともあるのか、真夏との気温差をはっきりと感じさせられました。

私たちは、沢のすぐ側の場所から作業を始めました。

ナタで杭をつくり、それを打ち込んで丸太を留めるという作業を繰り返し行いました。段差があるところや傾斜が急なところでは、階段を作って径路としました。

径路を作っている途中には、水が流れて出て来るようになってしまい、その場所を避けなければならないといったことも起こりましたが、作業方法を少し変更することでうまく対応することができました。

作業の終了後には、沢沿いの道から山の上に登る直前の辺りまで径路ができ、さらに新たに2か所の階段ができました。これで傾斜が急だった場所でも大分歩きやすくなったのではないかと思います。

今回の作業で沢沿いの部分の径路はほぼ完成したようなので、Forest Nova☆では次回からは引き続いて上の方に登っていくような径路を作っていくことになるかと思います。山の高い方の場所は傾斜が急で作業も大変だと思いますが、全員で協力して作業を上手に進められればいいと思います。

木島　未華（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

10月17日（第三日曜日）

“充実の秋”；清涼な空気、オレンジ色のコスモス（秋桜）揺れる秋の森・キノコの季節

朝礼は、森林インストラクター内野さんの「毒キノコに注意しましょう」と言う楽しい話ではじまった。

参加者：望星高校１５名＋学生連合１０名＋日大１５名＋生命の森宣言６名＋東急２名＋一般１７名、合計６５名。

・先ず、森林整備班は、体験学校ルート上にある送電線の倒れ掛かっている5本の杉の処置を手際よく、難しい作業を難なく完了。お久し振りの東急グループと初参加の長瀬さんがこれに加わる。

・A地区；生命の森宣言・東京班には、女性２名の応援も入って作業は活気づく。このチームのチームワークは素晴らしく、各人が距離感を保ちながらバランス良く作業を進めているので凄いスピードで森の視界が開けてゆく。斎藤指導員の感嘆の声もあった。

左上、左下：径路づくりをするForestNova（小原）

右：桜井先生に指導を受ける望星高校生（嵐山）

・お昼休み食事後は腹ごなしに，栗のイガ拾い。よく燃えるので火付けに重宝する。
・法政大のゼミ生２名が森林各班へのインタビュー取材。緊張の二人でしたが森仲間の熱い想いが聞けたかなぁ～！。

・お久し振りの東急コミュニテイとの打ち合わせは「今も広く活動中だが、広がり過ぎてしまっているから森林活動原点であるこの森に再度、集約を検討」の意向との由。

・日大桜井研究室は、森の植生調査。

・望星の森の望星高校生らが，栃の木の成長調査と測量実習。いい汗かいた高校生たち。

・造園班は、スズランの苗を大量に持ち込んでスズラン乙女にならんと大奮闘！

・黒川養蜂班は、ニホンミツバチが５群もいついてくれたと大喜び。はちみつも少しばかり分けてもらってきたと皆んなにご披露。森から順次、帰ってきた森仲間も〝ちょとだけよ～“とお味見させて頂いたが・・・・・〝美味しい～”と絶賛の声。ミツバチが一匹、抗議しているのか、喜んでいるのかマトワリついている姿あり。

　帰路の駅前：「秋の夜のカドヤ会議」では、活動の在り方を確認する高度な話し合いになって８時過ぎまで盛り上がった。

伊藤　小夜子（本会、会員）

嵐山での作業の様子

[報告１]
相模原市・市民協働推進条例：
タウンミーティング

9月18日（土）

　相模原市・市民協働推進課主催により、去る９月18日（土）、橋本公民館で開かれた。
　当会は、相模原市と「小原本陣の森：林地団地化・集約施業」に取り組んでおり、事例発表者として活動内容を報告した。

　相模原市は、当該条例案の内容を公開し行政への市民参加を強力に打ち出している。その内容は、「目的、定義、基本理念、市民と市行政の役割分担、基本施策」に分かれている。

　ここで議論になったのは、「行政と市民が対等かどうか」であった。

　当会の取る立場は、憲法に国民主権と定義しているように市行政の中でも、「市民主権」を明確にした方が良いと云う事だ。実際に市行政と協働事業をしていて困らされるのは、相変わらず市側に“お上意識”が随所で顔を出すことだ。権力と資金を握っていることからそうなるだろうが、市民から権限を与えられ、税と言う形で

資金を得ていることを認識していないからそうなる。

また、このミ―ティングで当会は、このような協働の温度差を無くすために以下を提案した。

想い（理念）を共有する。
協働の仕組みの相互理解（コミュニケ―ション）が必要。
行政・市民の役割分担を明確にして認め合い、相手の領域に踏み込まない距離感も必要だ。
・行政の特性　　：組織力、情報力、信用力、資金力
・市民活動の特性：創造力、柔軟性、敏速性、実践力

大衆の時代と言われる今世紀は、国民・市民と行政の相互理解によってのみ、時代を乗り切る事が出来る。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告２]
緑のダム湘南の森

9月10日（金）

参加者：岩澤、辺見、小長井、佐藤、計４名。

今日も暑さは去らず、でも森の中は涼やかな風が通り、それほど不快ではありません。この日も生育旺盛な夏草に負けないように、草刈りに励みました。「ヤブラン平」はこれまでにないくらい沢山の花が咲いて、名前負けしないような盛況、通る人が異口同音に「こんなにきれいなのは初めてだ」と喜んでくれます。原因は明白です。今年はいつもよりこの地域の草刈りに励んだからです。刈り払い機を使わずに、手作業で丁寧にヤブランを残すように刈ったことがこのような成果となったのです。通りかかった東京会の一行も、喜んでくれました。

佐藤　憲隆（緑のダム湘南の森）

[報告３]
緑のダム体験学校に参加して

緑のダム体験学校に参加してくださった相模原市内の小学生から感想が届きましたので、ご紹介します。

きのう森林体けんで草とりをしました。
森林見学でくりやかきをそだてているのを見ました。
草とりをやってちょっとたいへんでした。
それでちょっと休んでいいよといってくれました。
やすんでいたらばったがいました。
つかまえました。
くさとりがおわったらみんなほめてくれました。
うれしかったです。またいきたいです。
ともだちもたくさんできました。
山をあんないしてくれてありがとう。
（小学２年男子児童）

私は内野さんが森の中を案内してくれて、キノコの種類や
かぶれる葉っぱを教えてくれたり、珍しい昆虫の名前を
教えてくれたことがとても楽しく勉強になりました。
カエルは水がきれいな場所でないと生きていけないそうです。
水源地近くにカエルがいるのを発見して、水がきれいなんだ
と思いました。
水って人間にも植物にも昆虫にも大切なんだなぁと実感しました。
（小学４年女子児童）

[報告４]
嵐山造林学実習に参加をして

10月17日（日）

平成22年10月17日、大学の造林学実習として嵐山での計測・毎木調査を行いました。

私達が行った作業は、ボランティア活動ではありませんでしたが開始の挨拶とお昼ご飯は共同で過ごさせて頂きました。その際、驚いたことはボランティア参加者の人数が多いことと参加者の年齢層が高校生からご年配の方々までと幅広いことでした。以前、大学の講義で里山の利用としてコミュニケーションの場であるということを習ったことがあります。具体的に言うと、都市と田舎の間に位置する里山は働く人間と環境教育等で訪れる子供達との関わりを持てる場になるということでした。訪れた嵐山も、都市から訪れやすく多くのボランティアの方が参加しているので、コミュニケーションの場になっていることを目で見て実感し身近にそのような森林が存在したことに嬉しく思いました。また、ボランティアの種類もワンパターンのみでなく様々な種類に分けられていることが新たな参加者が森林を理解する上でとても良い方法だと思いました。それは森林が私達の生活に与えてくれている恩恵は一つではないようにボランティアの方法も一つではないという関連を安易に考えることが出来たからです。

嵐山では、実習体験のみでなく森林ボランティアの有意義さも見つめることが出来ました。今後は私自身もこのような森林ボランティアに参加して森林・地域を活性化させていきたいです。

笹原　千佳（日本大学生物資源科学部　森林資源科学科）

[報告５]
望星の森、中間報告として

望星の森の活動も今年で７年目に入ります。当初、ひたすらボサ刈りをする活動から始まり、少しずつ植樹する種類、本数も増え、先日のFSCの継続審査の際にも、審査官の方から、よくもここまで立派に、というコメントを頂けるまでになりました。現在、望星の森では、これまでの活動をまとめるべきいくつかのプロジェクトを進めています。

まずは、これまでの活動を東京学芸大、環境教育実践施設の研究紀要に投稿します。ここでは、高校生が継続的に活動することの意義を研究しています。これまでの先行研究では自然体験により自然への興味、関心が増えたとするものは多いのですが、活動を通して、「やりがい」を感じていくことはあまり指摘されていないようです。継続することでやりがいを感じたり、その土地への愛着、ひいては自然に対する本当の意味での環境観を形成するのではないかというテーマで調査しています。

また、望星高校の通信制という特性を生かしたe-Learinngを活用する事での効果について、またその成果でもある望星高校内の望星の森特設サイトの紹介も行いたいと思います。

さらに今年度の調査の目的でもある望星の森における炭素固定量についてもまとめて発表する予定です。これからもご支援のほどよろしくお願いします。

宮村　連理（本会、理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

９月号から会報の郵送を取りやめています。継続して郵送を希望される方は以下をお読みください。

現在、会費は３千円です。最近はNPOが増えているため、助成金の確保が難しくなっています。総会で決まった通り、事務費低減のため、会報は当会ホームページの閲覧を原則として、従来通りの郵送をご希望の方には、郵送費（１千円）を負担して頂きます。（ご希望のない場合は郵送は致しません）
ご協力よろしくお願いたします。

木工班メンバーを募集しています

木工班では、班長見習い１名、メンバー２名を募集しています。

間伐した木材を活用し、ＦＳＣ認証の森のグッズの商品化を目指しています。若柳嵐山の森の伐採現場での簡易製材、オリジナリティある製品の企画や製作に参加してくださる方を募集しています。

今まで実際に製作したものは地元の福祉協議会や駅前の飲食店に納入、活用されています。

興味がある方は事務局までご連絡ください。

「森づくり・モノづくり」特別コンテストのお知らせ

森と都市をつなぐ「UIA2011 東京大会チェアシティ展」への参加コンペは水源涵養林である神奈川県相模原市相模湖地区では、商工会・NPO法人「緑のダム北相模」・民間企業が協働して「森林再生事業促進実行委員会」を組織し、森林再生事業を創出する活動を行っております。

第4回「森づくり・モノづくり」コンテストは、都会の人々に森の大切さを呼び掛けるため、また「間伐材」や「ＦＳＣ認証材」などの活用を普及させるために、特別コンテストとして「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」への参加コンペを実施します。プロやアマチュアを問わず多数の皆様の応募をお待ちしております。
詳しくは本会ウェブサイトをご覧ください。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸・・何か美味しいものを準備する)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ